

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(11月28日～12月4日)

2022年12月22日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- フレニン国防大臣が西側との対話に言及(11月30日)
- 欧州委員会はベラルーシの市民社会を支援するため、新たに1億ユーロを拠出(12月1日)
- ベラルーシの伝統工芸細工が、国連教育科学文化機関(UNESCO)の無形文化遺産に登録(12月1日)
- ルカシェンコ大統領がプーチン露大統領と電話会談(12月2日)
- ショイグ露国防大臣の来訪(12月3日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●防衛問題に関する会議

大統領の発言要旨以下のとおり。

- ・ウクライナはどのような口実であれ北大西洋条約機構(NATO)加盟国を戦争に巻き込もうとする。そのことは11月15日のポーランドでの爆発事案からも明白。
- ・国外逃亡中の反体制派の間で、ベラルーシ国内での暴力による政権奪取やテロ行為を行おうという声が高まり、国内の施設に対する攻撃が公然と呼びかけられている。
- ・西側諸国が軍備を増強しており、ベラルーシを含む地域全体の軍事的・政治的状況はさらに悪化する。
- ・ベラルーシに対する直接的な攻撃の兆候を常に監視し、見抜き、一切見逃してはならない。ベラルーシ周辺で起きていることから教訓を得ることが重要。

(12月1日 大統領府)

●ルーマニア・ナショナルデーに寄せた祝電

祝電は要旨以下のとおり。

- ・本年はベラルーシ・ルーマニアの二国間外交関係樹立30周年だが、両国のパートナー関係の歴史はるか以前から始まっている。長きにわたり、互恵的関係は、ベラルーシ人とルーマニア人に資する商業、農業、学術、教育、文化、スポーツの発展に寄与してきた。欧州地域の緊張感が高まる中にあっても、経済的・人的協力を強化することにより、友好と信頼という伝統を継承するだけでなく、自らの国民的アイデンティティと独自性を保持することは可能。
- ・近い将来にベラルーシとルーマニアが芳しくない政

治情勢を乗り越え、互いに敬い、支え合うという原則に基づいて本格的な対話を再開できるよう望む。

(12月1日 大統領府)

●プーチン露大統領との電話会談

- ・来るキルギスでのユーラシア経済同盟(EAEU)首脳会合での議題の他、輸入代替や連合国家プログラムの実施等、ベラルーシ・ロシア二国間の重要な課題につき協議。
- ・学術分野における協力として、両国の若手研究者の会議を1年以内に準備し、開催することで合意。
- ・連合国家の建設及び経済的な事項につき協議するため、本年12月中に会談を開くことで合意。

(12月2日 大統領府)

●ショイグ露国防大臣との会談(於ミンスク)

大統領は要旨以下を述べた。

- ・いざという時にはベラルーシ・ロシア連合国家の防衛隊の第一線が、いかなる侵攻に対しても反撃できるようにするため、プーチン露大統領との合意に則り、我々は真剣に取り組んでいる。
- ・ベラルーシにもロシアにも和平交渉の用意があるが、西側にその気がない。

(12月3日 大統領府)

【外交】

●欧州委員会はベラルーシの市民社会を支援するため、新たに1億ユーロを拠出

(12月1日 BPN)

【内政】

●反体制派の弁護に立つ弁護士が資格審査を通過できず

・法務省は V.マツケヴィチ、V.プリリチェンコ両弁護士に対し、抜き打ちの資格審査を実施。両弁護士は不合格とされた。

・マツケヴィチ弁護士はババリコ元大統領候補の弁護を、プリリチェンコ弁護士はコレスニコヴァ氏（ババリコ元大統領候補の選挙対策本部長）らの弁護をそれぞれ担当。

（12 月 3 日 法務省、「ゼルカロ（鏡）」）

●11 月には、少なくとも 354 人が政治的理由で拘束

・11 月は少なくとも 206 件の行政事件が審議され、95 人が逮捕、31 人が罰金を科された。

（12 月 2 日 人権団体「ヴァスナ（春）」）

●当局により「過激主義的集団」とされた団体が 105 団体に

（12 月 2 日 BPN）

●12 月 4 日現在の政治犯の数は 1,448 人

（12 月 5 日 人権団体「ヴァスナ（春）」）

【治安・軍事】

●フレニン国防大臣が西側との対話に言及

フレニン国防大臣は、大統領府発行「ソヴェツカヤ・ベロルシア」紙の取材において要旨以下を述べた。

・欧州において軍事・政治情勢のエスカレーションが生じており、交渉の席に着く必要があることは明白。交渉が長引けば、人命が失われ、インフラが破壊され、憎悪が高まるばかり。

・西側には、世界で生じている軍事的・政治的プロセスを適切に評価できる政治勢力がまだ残っている。我々の呼びかけに西側から速やかかつ肯定的な反応があることを期待。

（11 月 30 日 大統領府発行「ソヴェツカヤ・ベロルシア」紙）

●ベラルーシ・ロシア両国国防相会談（於ミンスク）

・両大臣は、軍事分野における両国共同での安全保障に関する協定を修正する議定書に署名。

（12 月 3 日 国防省）

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

（11 月 28 日～12 月 4 日）

・リトアニア国境警備局は少なくとも 44 人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 245 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 306 人を阻止。

（11 月 29 日～12 月 5 日 BPN）

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のルーマニア訪問（11 月 27 日～29 日）

・アウレスク外務大臣の招待によるもの。

・チウカ首相、同国議会議員、有識者、市民団体代表らと会談。

・ブカレスト大学で講演。

（11 月 27 日～29 日 チハノフスカヤ氏 Twitter）

●「統一移行内閣」の活動報告（12 月 2 日、於ワルシャワ）

（1）ベラルーシにおける動員令発令や参戦の見通し

・ベラルーシで動員令が発令される場合、①市民に対し、ベラルーシから脱出するための「緑の回廊」が複数設置される、②ベラルーシ軍の一部が動員された部隊に加わり、ウクライナの領土に派遣されるという可能性が考えられる。

（2）政治犯の釈放に向けた取り組み

・現時点では、全ての政治犯が釈放される可能性はない。そのため、ルカシェンコ政権から権力を奪取し、経済的・政治的圧力をかけることにより、政治犯の解放に向け働きかけるという戦略をとっている。

・政治犯の釈放は国際法の範囲内で行うことが難しく、釈放しようとする人がテロリストに指定される可能性あり。武力による釈放という選択肢は今のところなし。

（3）国外脱出したベラルーシ人の査証や旅券等

・「統一移行内閣」内に査証担当官がおり、ポーランド、チェコ、リトアニア等各国政府と連携。

・代替旅券の問題についても、欧州委員会と連絡を取り合っており、解決の目途が立っている。

(4)ベラルーシ人義勇兵と「統一移行内閣」のやりとりが上手くいっていないこと

・軍事的な使命を果たすことを考える義勇兵の中で、ベラルーシの将来を懸念する声が起こり、「統一移行内閣」との間に政治的方向性の不一致が生じたことも。

(12月2日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●政治犯マリア・コレスニコヴァ氏が救急搬送

・11月29日、マリア・コレスニコヴァ氏(ババリコ元大統領候補の選挙対策本部長)が、収監先のゴメリ市の刑務所から同市内の救急医療病院に搬送され、緊急手術。

・氏は搬送時点で既に重体。いつ容態が悪化したのかは不明。弁護士は11月17日以降、同氏と面会できず。

・手術は予定どおり進み、成功。医師によれば、意識はあり、必要な治療と投薬が行われている由。氏は12月5日まで入院。

・同氏の父も面会できず、内務省職員同席の下で、医師から氏の容態が伝えられる。非公式情報によれば、氏は穿孔性潰瘍。

(11月29日～12月2日 ババリコ陣営 Telegram、「ゼルカロ(鏡)」)

【その他】

●ベラルーシの伝統わら細工が、国連教育科学文化機関(UNESCO)の無形文化遺産に登録

(12月1日 UNESCO)

●原子力事故を想定したヨウ素剤の投与等に関する手順の策定(10月19日付保健省・非常事態省合同決定第103/59号)

・稼働中の原発として、ベラルーシ原発(グロドノ州オストロヴェツ地区)、スモレンスク原発(露スモレンスク州)、リウネ原発(ウクライナ・リウネ州)を想定。

・廃炉作業中の原発として、チョルノービリ原発(ウクライナ)、イグナリナ原発(リトアニア)を想定。

(12月3日 法律ポータル、「ゼルカロ(鏡)」)

●12月1日現在のCOVID-19ワクチン接種状況

・総人口の70.7%がブースター接種済み

・5歳～17歳の22万600人以上が2回接種済み

・ベラルーシで接種可能なワクチンは以下の3種

－ ロシアで開発された Sputnik V (Gam-COVID-Vac)

－ 中国で開発された Vero Cell

－ キューバで開発された Soberana Plus

各州・ミンスク市の接種状況

	2回以上接種	州/市の総人口
ブレスト州	90万4,700人	132万人
ヴィテプスク州	80万2,800人	110万人
ゴメリ州	99万2,300人	136万人
グロドノ州	70万4,000人	101万人
ミンスク州	100万4,000人	147万人
モギリョフ州	69万8,100人	100万人
ミンスク市	131万8,000人	200万人

(12月1日 保健省、BPN)

(了)